



## 歯周組織の再生医療の現況と将来展望

日本大学歯学部保存学教室歯周病学講座 伊藤 公一

はじめに

21世紀になって、再生医療、遺伝子治療、臓器移植などに焦点があてられ、精力的に研究が行われ、新技術を駆使した再生医療の進歩・発展が顕著である。現状では、永久歯が抜歯されると、咀嚼、咬合、発音機能や審美を回復するためにブリッジ、局部床義歯、および総義歯、あるいは人工歯根（インプラント）を用いなければならないことから、歯（胚）の再生をはじめとする種々の再生療法を確立することが急務となっている。平成11年度歯科疾患実態調査によれば、歯肉になんらかの所見のあるものは国民の約73%以上にも及んでおり、成人の抜歯原因の約50%以上が歯周病に起因するという。

そこで、本シンポジウムでは、歯科領域における先端医療のなかから、特に歯周組織の再生療法に焦点をあて、以下に示す項目について述べてみたい。

### 歯周領域における再生療法の変遷と展望

1. 骨移植術
2. 歯周組織／骨再生誘導法
3. エナメルマトリックスタンパク質
4. 21世紀対応型再生医療

まとめ

国民が人生80年の超高齢化社会を迎えるにあたり、生涯丈夫で美しい歯や口の健康を保ち、全身的にも健康でかつ快適で豊かなQOLを送るためには、歯の寿命を短くする最大の原因である歯周病を、幼少期から予防することが極めて大切である。また、歯周病は生活習慣病ともいわれていることから、歯科医師の努力のみでは治療が困難な疾患であり、再生療法を含む歯周病治療に対する患者の理解と協力が不可欠となる。また、歯周病は理想的な原因除去療法を施しにくい疾患であるが、早期発見、早期治療に心がけ、再生療法を含む歯周治療を行うことで、歯周病の進行を阻止し、歯を保存することが可能となってきている。さらに、今世紀中には歯周組織再生療法においても再生医療を応用して破壊された歯周組織を完全に再生することは言うに及ばず、歯の再生も可能な治療法が確立されることが期待できる。